

第18回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同奨励賞受賞者

標記の賞について、学会賞・奨励賞の選考を行いました。その結果、会員の皆様より推薦いただいた候補の中から「学会賞」2件（1機関と2名）、奨励賞評価委員会の推薦による候補者から「奨励賞」1件の授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

第18回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

受賞： 奈良文化財研究所 企画調整部 文化財情報研究室

「全国遺跡報告総覧」以来の文化財情報の集約と公開の推進に対して

授賞理由：

奈良文化財研究所は、2008年度から実施された「全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」の成果を引き継いで、2015年に「全国遺跡報告総覧」をウェブ公開し、それまで閲覧の手段が限られていた文化財調査報告書類の利用の便宜を大きく改善した。それにとどまらず、文化財自体の地理情報をはじめとする各種データとの連携によって、文化財情報の可視化と可用性の大幅な拡大を実現した。

その後も全国の自治体や研究機関等の参画による継続的な情報の蓄積が進められるとともに、2023年12月には「全国文化財目録」を公開し、日本国内における文化財の所在状況を総合的に把握できる情報基盤の構築を進めている。これらの集約された情報は、学術研究、地域振興、文化財防災など多面的な活用が期待されることで、その社会的意義はきわめて大きい。

以上の成果を評価し、第18回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞を授与する。

受賞： 住広 昭子氏 中村 節子氏

美術館・博物館におけるライブラリー運営について、長年にわたり先駆的な役割を果たしたことに對して

授賞理由：

住広昭子氏は、奈良国立博物館勤務を経て、1980年に東京国立博物館に司書として着任し、同館資料館の開設準備に携わった。資料館開館以降は、図書資料を主とした資料の受け入れ、管理、閲覧公開業務について、長年、中心的な役割を果たした。この間、組織形態の変化や資料の増加などの課題に対処するとともに、博物館コレクションと図書資料情報の連携や、シーボルト寄贈本のネット公開など、博物館が時代に即応してゆく上での大きな成果を残した。

中村節子氏は、1993年にブリヂストン美術館（現・アーティゾン美術館）に着任し、同館図書室の運営体制の整備に尽力した。国内に先例のほとんどない中で、司書1名で学芸業務に対応するライブラリーとして、資料分類の確立や図書購入手続き、データベースの構築をはじめとする日常的な諸業務の基礎を築き、以後の美術館におけるライブラリーのあり方に大きな影響を与えた。同館カタログの文献目録や、展覧会の要所に出品された書籍や雑誌は、氏の長年の努力を反映している。

両氏はそれぞれ国立、私立と立場は異なるが、日本におけるミュージアムライブラリー構築の先駆者として、多くの課題に対処し、また後進に対する導き手として活動されてきた。本学会においては創設期からの会員、役員として会の発展に尽力された。

以上の成果を評価し、第18回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞を授与する。

【学会賞の概要】

以下a), b), c)のいずれかに該当するものを選出する。対象は会員に限らない。

- Museum, Library, Archivesをはじめとするアート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関。
- アート・ドキュメンテーション分野の振興発展に寄与した功績が認められる者、あるいは機関。
- アート・ドキュメンテーションに関わる論文・記事(学会誌『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』への掲載に限らない)、図書、展覧会、データベース、ウェブサイト等のなかから優れたもの。対象となる論文・記事、図書、展覧会は、受賞年の前年度を含む過去3年間に発表されたものとする。

第18回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション奨励賞

受賞： 石井 淳氏

研究ノート「展覧会の包括的な情報モデルの検討」（『アート・ドキュメンテーション研究』第31号、2023年）に対して

授賞理由：

石井氏は本研究ノートにおいて、展覧会に関わり生産・流通・受容される情報を分類識別するための包括的な情報モデルを試作し、実際に開催された展覧会を対象にその適合性を評価・考察した。展覧会を構成する情報は非常に複合的であり、国内における研究は発展途上にある。複雑かつ重要な主題に正面から取り組まれたことを評価し、今後の研究の更なる発展に期待し、奨励賞を授与する。

【奨励賞の概要】

アート・ドキュメンテーション分野の発展における将来の貢献を奨励するため、本会が主催する研究発表会、シンポジウム、セミナー、ポスターセッション、活動紹介等で発表した登壇者、および『アート・ドキュメンテーション研究』に掲載された論文・記事の著者のなかから優れたものを選出する。対象は会員に限り、受賞年の前年度に発表、刊行されたものとする。